

ややこしい
ややこしい

～ソーダと
サイダー～

芳田尚哉

ソーダとサイダー

「これはなんや」

男は手に持ったペットボトルを若い男に突き出す。

「サイダーです」

若い男は淡々と答える。

「お前な、なんでこんな甘いもん飲まなあかんねん。あほか、お前は」

理不尽極まりない言動に若い男はため息を吐く。

「兄さんがサイダーこうてこい言うたんやないですか」

「せや。言うた」

男は悪びれず言う。

「せやから、ちゃんとサイダーこうてきたやないですか」

「あほかお前は。酒を割るのに、こんな甘いもん使えるか。ちゃんとしたもんこうてこんかい」

男の手元には、芋焼酎が入ったグラスがある。

「ソーダ割りしたいんでしたら、ちゃんとソーダって言うてくれませんか」

「せやから、サイダーこうてこい言うたんや。そんなんもわからんのか」

言われて若い男はため息を吐く。

「兄さん、サイダーとソーダは違うもんでっせ」

「はあ？ なにわけわからん事言うとんねん。シュワシュワしとるやろ。ソーダが訛ったらサイダーちゃうんけ。逆か？ どっちでもええわ。一緒やないけ」

男はわけのわからない自論を展開する。

「違うもんですさかい」

「一緒やないかい」

「ちゃいますって。兄さんにわかりやすいように説明すると、水に二酸化炭素を入れただけなんがソーダですわ。炭酸水です。で、そこに果汁とか甘味料……つまり味をつけたんがサイダーですねん」

「……………はあ？」

若い男の説明は男には通じていない。

「せやから、甘くないのがソーダで、甘いのがサイダーですねん。で、兄さんがこうてこい言うたんは、サイダーでっしゃろ？ せやから甘いんです」

「……そこはお前、わかるやろ。融通ちゅうんか、わかれや」

男の強引さに若い男は何度目かのため息を吐いた。

「わかりました。ソーダでええんですね」

若い男はソーダを買いに出で行った。

ややこしいややこしい～ソーダとサイダー～

<http://p.booklog.jp/book/110261>

著者：芳田尚哉

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/studiosaix/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/110261>

電子書籍プラットフォーム：パプー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社：株式会社トゥ・ディファクト